

---

# 移ろい世界

桃城まさる

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
移ろい世界

【Nコード】  
N9208Z

【作者名】  
桃城まさる

【あらすじ】  
壁に隔たれた二つの世界の話。

アナウンスです。

まもなく船が出ます。

世界Aへの船が出ます。

世界Bへと戻って来るのは千年後です。

あなたがたが生きているうちには、決して戻りません。  
まもなく船が出ます。

お忘れ物はございませんか？

心残りはありませんか？

あなたの大切な物はちゃんとあなたの側にありますか？

あなたの大切な人はちゃんとあなたの側にいますか？

まもなく船が出ます

アナウンスでした。

\*\*\*

楽亜がいなかった。

まずい。

楽亜は小さいから、知らないのかもしれない。

世界の壁が閉じてしまう。

捜さなくては。いや、だがどこにいる。

アナウンスが聞こえる。

まずい。

とにかく、捜さなくては。

\*\*\*

アナウンスです。

知らない子供たちのためにお教えします。

世界は二つあります。

世界は二つに分かれました

途方もなく昔のことです。

私たちのお祖父さんのお祖父さんのそのまたお祖父さんの、ずっとずっと昔のお祖父さんの頃の話です。

お祖父さんたちは、世界を二つに分けました。

\*\*\*

家の中を搜した。

いない。

部屋の中にもいない。

ピンク色をしたウサギが、ベッドの上で微笑んでいた。置き去りにされると言うのに、呑気なものだ。

そんなことより、今は楽垂だ。

学校だろうか。

走る。

\*\*\*

もともと世界は一つでした。

信じられないかもしれませんが、本当です。

その頃には世界に壁もありませんでした。

嘘みたいな話ですが、本当です。

地平線を見ても、壁がないのです。

地平線は、ずっとずっと先、あなたの足元にまで続いていました。

ほら、笑わないで。  
本当の話ですよ。

\*\*\*

学校に着いた。  
当然だが誰もいない。生徒も先生も給食のおばちゃんも。  
がらんどろ。

静寂が学校に満ち満ちていた。

どこだ、楽聖。

廊下を走る。教室を一つ一つ見ていく。  
日に焼けたカーテン。落書きのある机。チョークの粉がこびり付いた黒板。誰かが座っていた椅子の脚の、曲がり具合。誰かが忘れていった上履き。お前も置き去りか。破れた教科書。あつちでは使わないのかな。黄ばんだ、床の汚れ。

職員室も、音楽室も、体育館も搜した。

バスケットボールが落ちていたので、スリーポイントシュートを  
しといた。外れた。

こんなことしている場合じゃない。  
家でも学校でもないとしたら、どこだ。  
とにかく校門から出た。

\*\*\*

かつてこの世界は汚れ切っていました。  
汚したのは誰ですか？  
私たちのお祖父さんです。  
悪い人でしょうか？ いえいえ、悪くはありません。

あなたたちは部屋を掃除しますね？

しませんか？ スボラですね。

ほとんどの人は自分の部屋を掃除します。

なぜですか？

汚いからです。

では、あなたは自分の部屋を故意に汚したりしましたか？

わざわざカーペットにコーヒーの染みを作りましたか？

わざわざ玩具や本を散らかしたりしましたか？

違いますよね？

人は、自然に汚します。

人は、生きているだけで、周りを汚します。

そういうものなのです。

\*\*\*

街には人っ子一人いなかった。

車の走らない道路の、センターラインの上を走る。

「ははっ」

思わず笑った。ちょっと緊張していた。

車なんてもう通らないのに。

こっちの世界に車が通るのは、千年後だ。

そのときにはもう、アスファルトも朽ちている。

学校もなくなっている。脚の折れた椅子は風化する。

街にはビルが沢山立っている。

どれも高い。見上げて、背伸びしたって、屋上に手が届くはずもない。

でもどんなビルだって、世界の壁よりは低い。

世界の壁は世界のどんな建築物よりも高い。

どんな山よりも高い。  
だって世界の壁だもの。  
二つの世界を隔てる壁だもの。

\*\*\*

さきほど「ズボラ」と汚い言葉を口にしたことを、謝ります。  
ズボラな人々、ごめんなさい。  
あなたたちは、とても自然な人間です。

そう、掃除は面倒くさいのです。  
いちいち自分の手でやってられないのです。  
君たち。

母親に掃除をさせていませんか？ 父親でもかまいませんよ。兄弟だってかまいません。とにかくあなた以外の人です。  
掃除を誰かに押し付けていませんか？

いいのです。  
それでいいのです。  
私たちのお祖父さんたちは、実際にそうしました。  
掃除を、他人任せにしてしまったのです。

\*\*\*

頭上を見上げた。  
空を、飛行船が覆い隠している。  
太陽は見えない。  
飛行船の群れが、世界Aへと向かって飛んでいく。  
世界Bにいる人間全てを乗せて、世界Aへと飛んでいく。  
千年に一度の一大イベント。

自分や楽亜は幸運だと思う。  
生きて、世界の壁を越えられる。  
これはとても名誉なことだ。  
世界B第二十八代目大統領は、そう言っていた。  
とても、名誉なことなのだ。

\*\*\*

アナウンスです。忘れないように言いました。私はアナウンスです。

他人って誰でしょう？  
自分以外の人ですね。  
でも人ではありません。  
混乱しないでください。  
アナウンスはまわりくどい表現が大好きです！

ごめんなさい。

簡潔に言います。  
他人とは、世界です。  
この世界です。  
AでもBでもありません。この世界そのものです。  
私たちのお祖父ちゃんたちは、汚した部屋の掃除を、世界に押し付けたのです。

\*\*\*

「楽亜！」  
とうとう見つけた。

樂亜は公園の築山の上でたたずんでいた。

「何してるんだ樂亜、船が出るぞ」

「お兄ちゃん」

樂亜は一度だけこつちを見て、また空へと視線を戻した。

空は、飛行船に覆われている。

世界の壁めがけて飛んでいく、無数の渡り鳥たち。

「ほら早く、もう時間がないんだ」

樂亜は首を振った。横に。

「なんで？」

「わたし、行きたくない」

「なんで？」

「こつちが好きだから」

馬鹿、と怒鳴った。

静寂の街に、自分の声だけが響く。

「何考えてんだ！ こつちにはもうすぐ誰もいなくなっちゃうんだぞ！」

「いいよ」

樂亜は妙に大人びた声で言った。

「一人で暮らす」

「千年を？」

「千年を」

馬鹿、と怒鳴った。

\*\*\*

世界には浄化作用があります。

世界は生き物です。

世界には抗体がたくさんいます。

病原菌もいます。病原菌の一つを人間と呼びます。

世界には風が吹きます。  
世界には雨が降ります。  
世界は地震を起こします。  
世界は津波を起こします。  
病原菌の作った病巣は、世界の身動き一つで消えていきます。  
病原菌の作った汚れを、世界に住む抗体たちが分解します。  
ゆつくりと。  
ゆつくりと。  
千年の月日をかけて。

分かりましたか、子供たち。  
これから世界Aで生きていく子供たち。  
世界Bは、これから浄化されるのです。  
世界Aを、これから汚すのです。

\*\*\*

「楽亜、頼むよ」  
お兄ちゃんの言う事を聞いてくれ。  
頼むから。  
楽亜は首を振った。横に。  
「どうしてだい、楽亜」  
こっち世界の何がそんなに良いんだい。  
だって、わたしたち。  
「生きてたじゃない」  
こっちの世界で千年。  
「なのに、どうして捨てるの。放棄するの。そんなの無責任だよ」  
「仕方ないだろ。ずっと同じ世界で暮らしていると、環境汚染が進んで、人間はいずれ生きていけなくなるんだ。だから定期的に住む世界を移して、浄化しているんじゃないか」

「そしてまた、一から世界を汚すんでしょ  
ずるいよ。」

可哀想だよ。

こんなの、変だよ。

「間違ってるよ。だからわたしは残る」

馬鹿、と弱々しく言った。

間違っているのは。

間違っているのは……？

空を飛行船が埋め尽くしている。

船が出ます。

アナウンスの声が聞こえる。

全て飛行船に取り付けられたスピーカーから、アナウンスが世界に響く。

まもなく船が出ます。

\*\*\*

まもなく船が出ます。

世界Aへの船が出ます。

世界Bへと戻ってくるのは千年後です。

お忘れ物はございませんか？

心残りはありませんか？

あなたの大切な物はちゃんとあなたの側にありますか？  
あなたの大切な人はちゃんとあなたの側にいますか？

まもなく船が出ます。

\*\*\*

分かったよ、と自分は口にしていた。  
分かった、楽亜。

「お兄ちゃんは、もう何も言わない」  
楽亜の隣に座った。

二人で飛行船の群れを見上げた。

「お兄ちゃん？」

「何も言わないぞ」

飛行船の先には世界の壁がある。

二つの世界を隔てる壁。右の地平線から左の地平線まで続く壁。  
世界のあらゆるものより高い、成層圏にまで届く壁。自分たちのお  
祖父ちゃんたちが何十年という歳月と何億という人材を投資して造  
った、巨大な壁。

まもなく世界の壁は閉じます。

次に開くのは千年後です。

アナウンス。

学校には誰もいない。

街には誰もいない。

部屋の中ではピンク色のウサギが笑っている。

車は通らない。

空には飛行船が飛んでいる。世界Bの全ての人間を乗せている。  
みんな、世界Aへと移ろっていく。

\*\*\*

おっと、言い忘れました。

アナウンス。

世界Aは破壊された文明があります。

千年前に置き去りにされ、世界によって浄化された文明です。

浄化されたはずの文明です。

もしも　もしも、仮定の話です。

千年前の、世界移動の時、誰かが世界Aに残っていたら？可能性はゼロではありません。

飛行船のシステムは完璧ではありません。

アナウンスが聞こえなかった可能性もあります。

もしも、誰かが残っていたら？

子供たち。

千年前に置き去りにされた人たちが残っていたら？今は？

\*\*\*

生きていこうと決めた。

この誰もいない世界で。楽亜と一緒に。

待とうと決めた。

世界の壁がまた開くのを。

そのときには、あつと驚くものを見せてやろう。

世界Aから帰ってきた奴らに、目に物見せてやろう。

悲しいかな、その頃には自分は生きていないだろうけど。

少しだけ心配なのは、楽亜と自分が兄妹だと言うことだ。

楽亜の横顔を見た。

楽亜は飛行船の少なくなった空を見上げていた。無垢な瞳だった。まあ、いいか、と思った。

何とかなるだろう。

\*\*\*

最終便が出ました。

もう残っている人はいませんね？  
いないはずです。

まもなく世界の壁が閉じます。

お別れを言いましょう、子供たち。

さようなら。

さようなら、世界B。

また千年後にお会いしましょう。  
アナウンスでした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9208z/>

---

移ろい世界

2011年12月28日21時59分発行